

緊急シンポジウム

巨大地震と原発 福島原発事故の意味するもの

3月11日14時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が福島第一原発を襲いました。外部電源喪失により緊急炉心冷却装置は稼働せず、非常用ディーゼル発電機も14メートルの津波によりすべて停止しました。こうして福島第一原発の炉心溶融事故は始まりました。現在、炉心と使用済み燃料貯蔵プールを冷却し、放射性物質を閉じ込める懸命の作業が続けられています。しかし、その見通しは立っていません。なぜ最悪の炉心溶融事故にまで拡大したのか、その全体像は必ずしも明らかではありません。そこで下記要領で緊急シンポジウムを計画し、事実の究明とともに、その背景や教訓について検討を加えたいと考えますので、多数の参加を期待します。

- 日時 2011年4月23日(土)午後1時半～5時
- 場所 日本大学歯学部2号館B1第一講堂
JR御茶ノ水駅、東京メトロ千代田線より徒歩3分
- 内容 1) 東北地方太平洋沖地震はどのような地震だったのか
立石雅昭(新潟大学)
2) 福島原発で何が起こったのか
深尾正之(元静岡大学)
3) 放射能による汚染と被ばくの実態はどうだったのか
野口邦和(日本大学)
4) 福島原発事故から何を学ぶか
館野淳(元中央大学)
5) 総合討論
- 参加費 1000円
- 主催 日本科学者会議エネルギー・原子力問題研究委員会
核・エネルギー問題情報センター
- 問合せ先 日本科学者会議
文京区湯島1-9-15茶州ビル9F
TEL 03-3812-1472

